

2016 中国シクロクロス UCI レース・遠征ご報告

先日 8 月 28 日から日本を出発し、北京でレース参戦しておりました Ready Go JAPAN の須藤むつみ選手が「中国シクロクロス UCI レース遠征」の予定スケジュールを終えて 9 月 4 日に無事、日本帰国しましたので、ご報告申し上げます。(掲載の写真撮影すべて：Momiko Tanne)

※掲載元：RGJ チームブログ「中国シクロクロス遠征無事帰国の御報告です。」こちらに加筆。
<http://readygojapan.cocolog-nifty.com/blog/2016/09/post-44c6.html>

*2016 Qiansen Trophy Cyclo-cross 遠征概要：Yanqing and Fengtai , Beijing, CHINA

・遠征期間：2016-8-28(日)～2016-9-4(日)



第 1 レース「Yanqing Station/UCI Class-1」で走る RGJ 須藤

今回、中国 CX 参戦した日本チームメンバーは以下のとおりです。(敬称略)

【メンバー】

〈Elite Men〉

小坂 光 (宇都宮ブリッツエン シクロクロスチーム)

前田 公平 (弱虫ペダル サイクリングチーム)

小坂 正則 (スワコレーシングチーム)

池本 真也 (Frieten)

松本 駿 (Team SCOTT)

織田 聖 (弱虫ペダル サイクリングチーム)

藤田 拓海 (SNEL CYCLOCROSS TEAM)

齋藤 拓真 (Team CHAINRING)

〈Elite Women〉

武田 和佳 (Liv)

須藤 むつみ (Ready Go JAPAN)

安田 朋子 (SNEL CYCLOCROSS TEAM)

〈Staff〉

菅田 純也 (Team CHAINRING)

諏訪 孝浩 (SNEL CYCLOCROSS TEAM)

佐藤 成彦 (弱虫ペダル サイクリングチーム)

日比谷 篤史 (弱虫ペダル サイクリングチーム)

池本 秀紀 (宇都宮ブリッツエン シクロクロスチーム)

※更に日本からチームに密着するメディア担当も 2名同行

【レース日程】

・1st レース：2016年8月31日(水) 〈Yanqing Station/UCI Class-1〉 ※UCI クラス 1 レース

会場：Yanqing venue is located in Yanqing County, Beijing, China.

・2nd レース：2016年9月3日(土) 〈Changxindian Station/UCI Class-1〉 ※UCI クラス 1 レース

会場：Fengtai Changxindian, Beijing, China.



第1レースのコースを試走した後の日本チーム参戦選手たち

日本からの中国シクロクロスレース遠征事業としては4回目となりますが、Ready Go JAPANからは昨年より選手を選出・派遣をおこなっております。今年につきましては弊チームからは須藤むつみを選出、日本チーム全体としては今まで最大の男子・8名、女子3名、スタッフ5名という大所帯での遠征となりました。このメンバーの中には、初回の中国遠征から関わっている選手やスタッフもあり、現地で送るレース生活で非常に助かるアドバイスやフォローを受けることが出来ました。

また、今年は昨年の中国シクロクロス UCI レース同様に全2レース参戦となるスケジュールでしたが、



昨年のレース間の飛行機移動も伴う長い移動がなく、今年は2レースともに北京市内開催ということでレース間の移動が短く、コンディションを整えるのが昨年よりもラクで助かりました。

チーム全体の目標としては、男子・女子ともに「UCIポイントを獲得していただくこと」でした。女子レースでは15位以内に入ることが、その獲得の条件となります。なぜ、このUCIポイントを獲得するのかというと、日本の国のポイントを獲得した選手たちで積み上げて、世界選手権レースなどで国の獲得ポイント順で各国から参加可能な選手数を増やし、スタートラインにポイント順で並ぶ際にも少しでも前列に並ぶことでレースに有利になる、という重要な使命があるためです。更には、UCIポイントを獲得した選手たち個々も、日本国内外のUCIレースに出場される際にポイントを多く持っていればスタートの前列に並べます。

今年の中国 UCI レースについては、事前のエントリーリストによると男子は参

加65名、女子は30名と、こちらも4年目の開催で最大の参加選手数をなっておりますので、男子女子ともにUCIポイントを獲得するのは厳しい状況でありました。しかし、RGJ須藤は昨年も遠征参加していることもあり、現地での過ごし方のコツも会得していたこともあり、初めての参加となった選手たちに事前から情報を共有するようしておりました。特に今回も第1レースとなったYanqing Stationは、昨年とほぼ一緒のコースレイアウトと距離だったので、日本国内にいるうちから昨年の経験とともにレース動画を頼りに研究してトレーニングをおこない、機材なども準備をしてきました。

そのため、この第1レース「Yanqing Station」では、昨年よりも各周回のタイムも良く、レース中もリズムを崩さずに走り切れたので手応えがありました。そのため第1レースにおいては、昨年よりも1分以上早いタイムでゴールし、15位には入れなかったものの20位となり賞金を獲得しました。

一方で第2レースの「Changxindian Station/UCI Class-1」は、今回初開催となった会場でのレースで



した。そのため、コース後半のUターンの連続に手こずっている選手が多い中、たまたま直前まで練習を重ねていた、2016-2017シーズンJCXシリーズ開幕戦の会場でもある、茨城県取手市の小貝川コースで何度もコースターンの練習をしていたのでフィーリングは悪くはなかったです。しかし、スタート直後に大きなパワーが必要な箇所があって、その箇所でスタート出だしが良くなって、その後の順位の巻き返しに手こずってしまい、目の前で完走を逃してしまったものの、このレースでも20位となり賞金を獲得しました。

本当は、昨年のように15位以内に入ってUCIポイントも獲得したかったのですが、今年は男子も女子も参加選手人数が一気に増えて、本当に手応えのあるレースにパワーアップしていました。そのため、ようやく名実ともに「UCI公認の最高クラス1レース」という内容になっており、そのレースの経験は今後の日本での転戦やレース運営にも十分生かせるものだと思います。

唯一残念なのは、今年も男女ともに中国からの参戦がなかったことです。しかし、アジアからは日本のみの参戦だったものの、男女あわせて選手11名というチーム参戦が出来、男子も女子もUCIポイントを獲得した歴代参戦の中で最高位の成績を修めたのは、様々な方面に良いインパクトがあったと思います。何よりも元RGJチーム所属で、現在シクロクロスやMTBで活躍するLivの武田 和佳選手が日本人女子の今レース遠征では最高順位の7位に入り大活躍したのは、彼女の成長を実感出来て本当に嬉しかったです。



写真左：第2レースで賞金を獲得したRGJ須藤

写真右：全レースを終えての夜、フェアウェルパーティーでレース主催者を囲む。左から今レース日本チーム総括の菅田 純也氏、大会オルガナイザーの Song Yanxing 氏、RGJ 須藤、小坂 正則選手

さらに、日本のシクロクロス界のレジェンドである1963年生まれのスワコレーシングチーム所属・小坂正則選手が今回初参戦したのも、私にとっては大きな支えになりました。小坂選手の息子さんである小坂光選手（宇都宮ブリッツェンシクロクロスチーム）は3回目の参戦ということで大会より特別表彰されており、そんな息子さんから、事前に中国のレース事情を聞いて参戦を決められたようですが、中国でも日本と変わらず重いギアで踏み倒す「小坂スタイル」の熱い走りで会場を沸かしていました。そんなベテラン選手はもちろん、活きの良い若い選手たちも今回のレース参戦から刺激を受けて、今後も世界に羽ばたいてほしいと心から願っています。

RGJ 須藤、そして Ready Go JAPAN がチームとして今後、この遠征の経験を通じて出来ることとしましては、2016-2017 シーズンより「Ready Go JAPAN チーム・シクロクロス班」として、須藤むつみ・伊藤千紘・高橋吹歌・吉岡梨紗の4名で日本国内のシクロクロス転戦をおこないます。さらに、チーム所在地の近隣でもある関東地方での開催シクロクロスレースにつきましては、チーム監督の須藤大輔とともに、チーム活動母体のNPO法人 J-BRAIN を通してレース運営の協力を昨年同様におこなっていきます。既にチーム地元のシクロクロス千葉（全2戦）、そして茨城シクロクロス（全4戦）、スターライト幕張、そして日本最大のシクロクロスレースであるシクロクロス東京への運営協力が内定しております。

更に、今年の中国 UCI レースでは、各国の選手たちから「日本にはノベヤマ、トウキョウという素晴らしいシクロクロスレースがあると聞いている」「日本では沢山のシクロクロスレースが開催されているようだね」と話をされる機会が多くありました。その中で「日本のシクロクロスレースに出たいが、どうすればよいのか？」ということも聞かれて、何人かの選手を実際にレースオルガナイザーへ紹介をおこなっております。ネットの発達で簡単に情報が分かる今ですが、やはり直接選手達と逢うことで情報を交換できるのが一番です。そんな貴重な機会にもなった中国 UCI レースに今年も参加できたことに感謝しております。



RGJ チーム 2016 広報パンフレットを手にする大会オルガナイザー Song Yanxing 氏

RGJ 須藤が全日本シクロクロス選手権のタイトルを獲得した第 6 回全日本選手権（富山県開催）から年を重ねて、今年の 12 月に栃木県宇都宮市で開催の全日本選手権は 22 回目となります。当時、全日本のタイトルを取ったときに私の使命は「日本のシクロクロスをもっと広めてレースの数を増やし、目標になるような世界に発信できる大きな大会を作っていくとともに、選手たちの住む区域で気軽に出場できるレース環境も同時に作ること」と心に決めました。今は、同じ志を持つ選手や関係者とともに、その目的を少しずつ実現しております。

そして現在、2016-2017 シーズンにおいて日本国内では北海道、東北、関東、長野、東海、中国、四国、九州の各ブロックでシリーズ戦を開催、さらに UCI レースは東北（さがえ）、関西（マキノ）、長野（野辺山）2 連戦、の全 4 戦がクラス 2 として開催されます。全体の日本国内レース数は 60 を越えております。こちらは AJOCC 公認レースのみのカウントですので、それ以上の数が今シーズン開催予定となっております。もはや「シクロクロス」は本場ベルギーやオランダに追いつく勢いの、日本での新しい自転車文化に成長しております。

今後もシクロクロスはもちろんのこと、自転車レースを中心としたチーム活動を通じて日本の自転車文化の育成と普及に今後も邁進していきますので、引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

今回のレースのレポートにつきましては、下記にも掲載されております。ぜひご覧くださいませ。

<RGJ 須藤の個人ブログ>

*第1レース：北京 Yanqing Station(UCI C1)レース

<http://rockmutsumi.hatenablog.com/entry/2016/09/01/012223>

*第2レース：北京 Changxindian Station(UCI C1) レース

<http://rockmutsumi.hatenablog.com/entry/2016/09/04/012049>

<自転車関連 WEB 掲載>

*サイクルスポーツ

前田公平が第2戦で6位！ 北京 UCI-C1 シクロクロス 千森杯 2016 レポート

<http://www.cyclesports.jp/depot/detail/68426>

*シクロワイアード

・千森杯 UCI シクロクロス Qiansen Trophy2016 第1戦

第4回目を迎えた中国の UCI シクロクロスレース「千森杯」 日本から11選手が参加

<http://www.cyclowired.jp/news/node/210772>

・千森杯 UCI シクロクロス Qiansen Trophy2016 第2戦

千森杯第2戦で前田公平6位、武田和佳が2戦連続のシングルリザルト獲得

<http://www.cyclowired.jp/news/node/211160>

最後に重ねて、今回の遠征にご協力いただきました関係者の皆様、ご声援をいただきました Ready Go JAPAN チームファンの皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

*オフィシャルスポンサー（順不同・敬称略）

・三和エネルギー株式会社 <http://www.sanwa-energy.com/>

※生分解性潤滑油「BIOBLEND」 <http://www.sanwa-energy.com/fuel/biodiesel.html#02>

*オフィシャルサプライヤー（順不同・敬称略）

・株式会社 ASK TRADING：BOMA カーボンフレームおよびホイール

<http://www.bomabike.com/>

・Champion System Japan：RGJ チームオリジナルジャージ

<http://www.champ-sys.jp/>

・ミシュラン（株式会社日直商会）：タイヤ

<http://www.nichinao.co.jp/>

・株式会社オージーケーカブト：ヘルメット、アイウェア、ボトル、バーテープなど

<http://www.ogkhelmet.com/>

・パワープロダクション（江崎グリコ株式会社）：サプリメント一式

http://www.glico.co.jp/info/pwr_pro/

・FALCON（パワーアップジャパン株式会社）：整備ケミカル用品

<http://www.puj.co.jp/product/index.html>

・コーワ株式会社：自転車専用輸送箱「BTB 輸行箱」

<http://www.j-kowa.co.jp/>

・武田レッグウェア(株)、エムエムプランニング(株)：高性能ソックス「R×L SOCKS」シリーズ

<http://www.bigtoe-takeda.com/>

・株式会社キャットアイ：サイクルメーターほか

<http://www.cateye.com/jp/>

・アスリート X：スポーツ専用化粧品

<http://www.athletex.jp/>



(写真はレースの休息日に大会主催者のアテンドで参加した万里の長城での日本チームメンバー達)